

県内経済は、生産活動が一進一退、公共工事、雇用情勢等の悪化傾向とともに、原油を始めとする原材料価格高騰の影響が様々な業態に及び、弱含みの停滞局面からやや悪化傾向にある。

1. 平成20年5月の県内経済

消費動向をみると、大型小売店販売額は、4ヵ月連続で前年を上回った。乗用車新車販売は、自動車取得税の暫定税率分復活、ガソリン価格の高騰などから大型、中小型乗用車、軽自動車がいずれも減少し全体でも2ヵ月ぶりに前年を下回った。生産活動は、外需に支えられた鉄鋼、輸送用機械などの業種は堅調であるが、増勢基調に一服感がみられる。投資動向をみると、公共工事は、件数で2ヵ月連続、請負金額で独立行政法人および市町村からの発注減により4ヵ月ぶりに、ともに前年を下回った。建築着工（民間・非居住用）は、棟数で2ヵ月連続、床面積、工事予定額で、ともに3ヵ月ぶりに前年を下回った。新設住宅着工戸数は、貸家で減少したものの持家、分譲がともに増加し、全体では3ヵ月ぶりに前年を上回った。雇用情勢は、新規求人数、新規求人倍率、有効求人倍率がともに7ヵ月連続で前年を下回った。

〔消費動向〕 減少：大型小売店販売額（全店舗）は、婦人・紳士の衣料品、身の回り品など全体的に低調だったものの、飲食料品の伸びに支えられ4ヵ月連続で前年を上回った。乗用車新車販売は、大型乗用車、中小型乗用車、軽乗用車がともに低調で全体では2ヵ月ぶりに前年を下回った。消費者物価指数は、9ヵ月連続で前年を上回った。個別企業の販売動向をみると、家電量販店は、薄型テレビ、エアコンは堅調、DVDレコーダー、冷蔵庫などは動きがみえ始めたが、パソコン、携帯電話、洗濯機などは低調で全体では前年をやや下回る水準で推移した。ホームセンターは、家庭用品などが堅調で全体では前年をやや上回る水準で推移した。旅行取扱額は、燃油特別付加運賃の高騰などから海外旅行が伸び悩み全体では前年を下回った。

〔投資動向〕 減少：公共工事は、件数で県からの引き続きの発注減少により2ヵ月連続、請負金額で独立行政法人および一部市町村の大幅な発注減少により4ヵ月ぶりに、ともに前年を下回った。4月の建設着工（民間・非居住用）における件数は3ヵ月連続、床面積および工事予定額は3ヵ月ぶりに大幅な減少となり、ともに前年を下回った。新設住宅着工戸数は、貸家で減少したものの、持家、分譲でともに増加し全体では3ヵ月ぶりに前年を上回った。

〔生産活動〕 一進一退：4月の鉱工業生産指数（季節調整済指数）は、107.0（前月比△0.2%）と2ヵ月ぶりに前月を下回った。原指数では、105.5（前年同月比+1.9%）と2ヵ月ぶりに前年を上回った。5月の大口電力販売量は、増加基調（前年同月比+10.1%）で推移した。

〔企業倒産〕 悪化：倒産件数は、平成15年5月以来となる20件となり8ヵ月連続で2桁台となった。また、倒産金額も2ヵ月ぶりに前年を上回り依然悪化増勢基調となった。

〔金融動向〕 低調：5月末の預金残高は15ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は17ヵ月連続で前年を下回った。

〔雇用動向〕 悪化傾向：新規求人数、新規求人倍率、有効求人倍率が、ともに7ヵ月連続で前年を下回った。

県内経済動向の概要

	項目	平成20年3月		4月		5月	
		前年同月比	前月比	前年同月比	前月比	前年同月比	前月比
消費動向	大型小売店販売額（全店舗）	↗	↗	↗	↘	↗	↗
	乗用車新車登録台数	↗	↗	↗	↘	↘	↘
	消費者物価指数（総合）	↗	↗	↗	↗	↗	↗
投資動向	公共工事前払保証取扱保証請負金額	↗	↗	↗	↗	↘	↘
	建設着工棟数（民間・非居住用）	↗	↗	↗	↗	-	-
	新設住宅着工戸数	↗	↗	↗	↗	↗	↗
生産活動	鉱工業生産指数（総合）注1	↗	↗	↗	↗	-	-
	大口電力販売量	↗	↗	↗	↗	↗	↗
企業倒産	企業倒産件数	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	企業倒産金額	↗	↗	↗	↗	↗	↗
金融動向	預金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	貸出金	↗	↗	↗	↗	↗	↗
雇用動向	有効求人倍率（パート含む）注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗
	新規求人倍率（パート含む）注2	↗	↗	↗	↗	↗	↗

良化 ↗ 良化傾向にあるがほぼ横這い ⇨ 悪化傾向にあるがほぼ横這い ⇨ 悪化 ↘
 注1：季節調整値。 注2：季節調整値。

2. 県内経済動向

—— 消費動向 ——

大型小売店 5月の県内大型小売店の販売額は、婦人、紳士服の衣料品やバッグ・アクセサリなどの身の回り品などが全般的に低調に推移したものの、飲食料品の伸びに支えられ全店舗ベースで191億48百万円（前年同月比1.0%増）と4ヵ月連続で前年を上回った。しかし、既存店ベースでは、同2.0%減となり2ヵ月連続で前年を下回った。

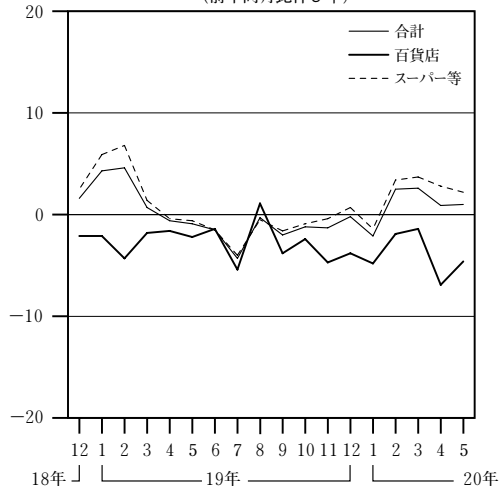
業態別に内訳をみると百貨店は、主力の婦人服、紳士服などの衣料品、身の回り品、家庭用品などが全般的に低調な推移となり合計で32億38百万円（同4.6%減）と9ヵ月連続で前年を下回った。

スーパーは、衣料品、身の回り品などが全般的に低調だったものの、主力の飲食料品の伸びにより、合計で159億10百万円（同2.2%増）と4ヵ月連続で前年を上回った。

乗用車販売 5月の乗用車新車登録台数（軽乗用車含）は、自動車取得税の暫定税率税率分の復活、ガソリン価格の高騰などにより合計で4,641台（前年同月比4.1%減）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。車種別でみると、先月、16ヵ月ぶりに下げ止まった大型乗用車は544台（同5.2%減）となり再び前年を下回った。主力の中小型乗用車は2,267台（同4.1%減）と5ヵ月ぶり、軽乗用車は1,830台（同3.6%減）と2ヵ月ぶり、ともに前年を下回った。

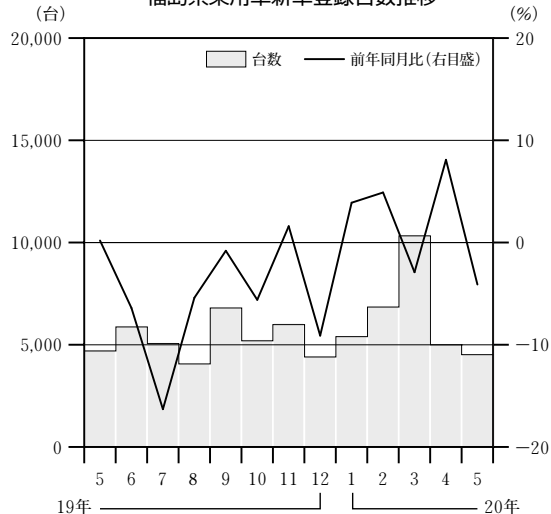
5月の乗用車中古車登録台数（軽自動車は名義

福島県大型小売店販売額（全店舗）
（前年同月伸び率）



（資料：経済産業省）

福島県乗用車新車登録台数推移



（資料：福島県自動車販売店協会）

変更を含む)は、合計で9,623台(前年同月比5.0%減)と3ヵ月連続で前年を下回った。車種別にみると、大型乗用車は2,857台(同0.4%減)と3ヵ月連続、中小型乗用車は3,620台(同10.6%減)と12ヵ月連続、軽乗用車は3,146台(同2.0%減)と2ヵ月ぶり、いずれも前年を下回った。

消費者物価指数 5月の消費者物価指数は、総合指数(福島市、平成17年=100)でみると、ガソリン価格の高騰、生活必需品の値上がりなどにより、102.8(前月比+1.3%)となった。前年同月比では+2.3%と上げ幅が2.0%台を超える大幅なものとなり、9ヵ月連続で上昇した。

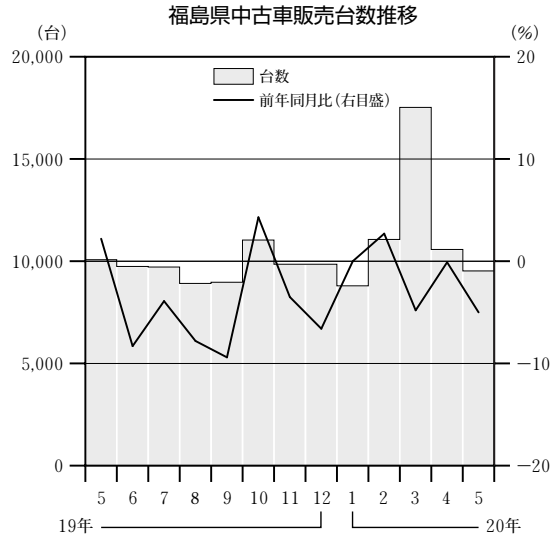
費目別の指数動向をみると、「食料」で104.7(前月比+1.2%)と6ヵ月連続、「住居」で100.2(同+0.6%)ならびに「交通通信」で104.0(同+5.4%)と2ヵ月ぶり、「光熱・水道」で110.4(同+0.5%)ならびに「被服及び履物」で107.0(同+1.8%)と3ヵ月連続で、ともに前月を上回った。一方、「家具・家事用品」で96.8(同△0.3%)と3ヵ月連続、「保健医療」で98.2(同△0.1%)と2ヵ月連続、「教育」で102.4(同△0.1%)と2ヵ月ぶり、ともに前月を下回った。「教養娯楽」は97.6で前月と変らなかった。

家電量販店 5月の売上は、薄型テレビ、エアコンは堅調、DVDレコーダー、冷蔵庫は動きがみえ始めたが、パソコン、携帯電話、洗濯機などは引き続き低調で、全体では前年をやや下回る水準で推移した。

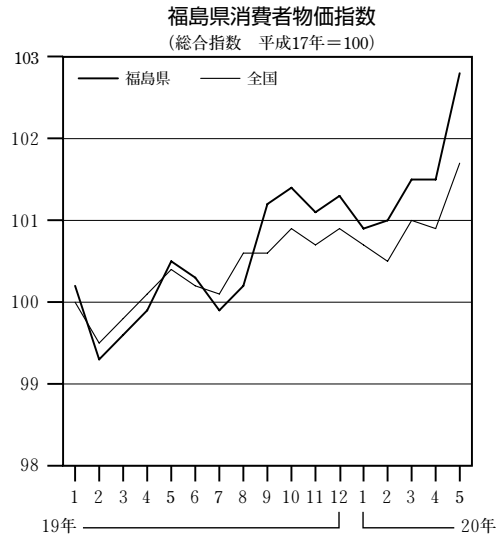
ホームセンター 5月の売上は、家庭用品、DIY商品、園芸用品などが堅調、商品単価の引き上げなどもあり全体では前年をやや上回る水準で推移した。

旅行 5月の旅行取扱額実績は、国内団体ならびに海外個人が前年を下回り、全体でも前年を下回った。海外旅行は原油高騰に伴う燃油特別付加運賃の上昇、GWの日並びの悪さなどから伸び悩みの傾向が強まった。

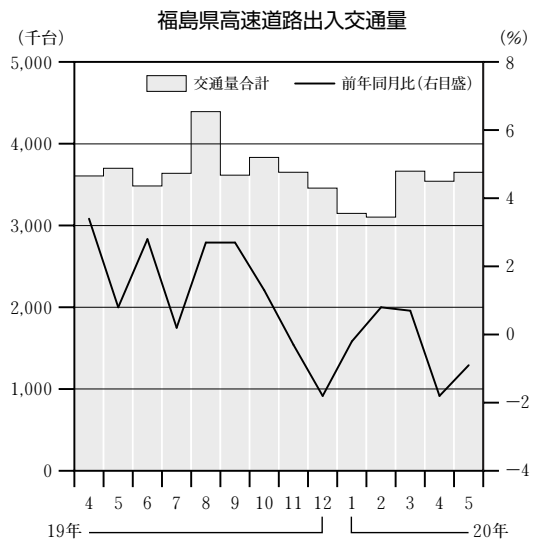
高速道路 5月の県内自動車道通過台数は3,678,681台(前年同月比0.9%減)と2ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると、東北自動車道(白河IC~国見IC)は2,175,543台(同0.4%減)と2ヵ月連続、磐越自動車道(いわき三和IC~郡山東IC)は260,604台(同0.2%減)と39ヵ月ぶり、磐越自動車道(磐梯熱海IC~西会津IC)は539,152台(同2.2%減)と2ヵ月連続、常磐自動車道(いわ



(注) 軽自動車は名義変更台数含む
資料: (社)日本自動車販売協会連合会 福島支部
(社)全国軽自動車販売協会連合会



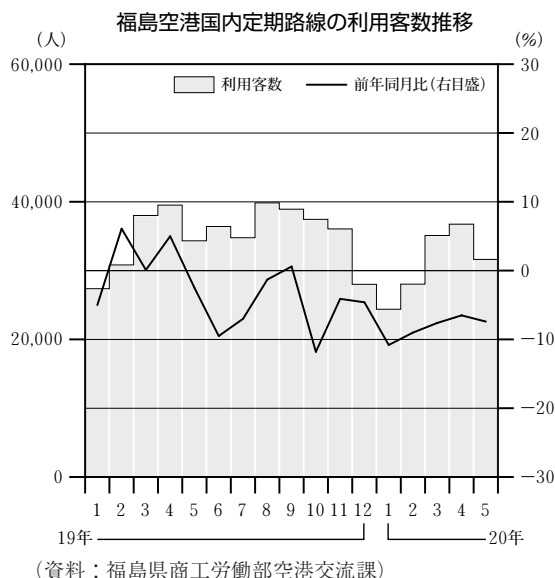
(資料: 総務省統計局)



(資料: 東日本高速道路(株)東北支社)

き勿来 IC～常磐富岡 IC)は703,382台(同1.6%減)と7ヵ月連続で、いずれも前年を下回った。

福島空港 5月の福島空港国内定期路線の利用状況は、31,936人(前年同月比7.4%減)と8ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると、札幌便は9,028人(同0.6%減)と9ヵ月連続、大阪便は17,642人(同5.8%減)と5ヵ月連続、沖縄便は5,266人(同0.3%減)と4ヵ月ぶりで、いずれも前年を下回った。一方、国際便の利用状況は4,934人(同8.9%減)と6ヵ月連続で前年を下回った。路線別にみると上海便は689人(同51.1%減)と4ヵ月連続で前年を下回った。ソウル便は4,245人(同6.0%増)と4ヵ月連続で前年を上回った。



—— 投資動向 ——

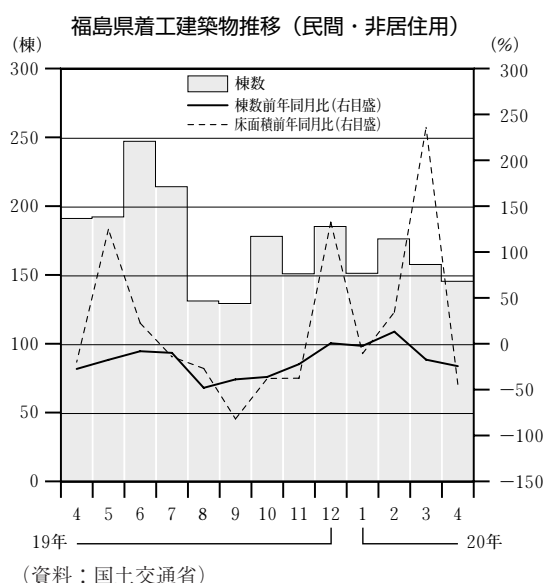
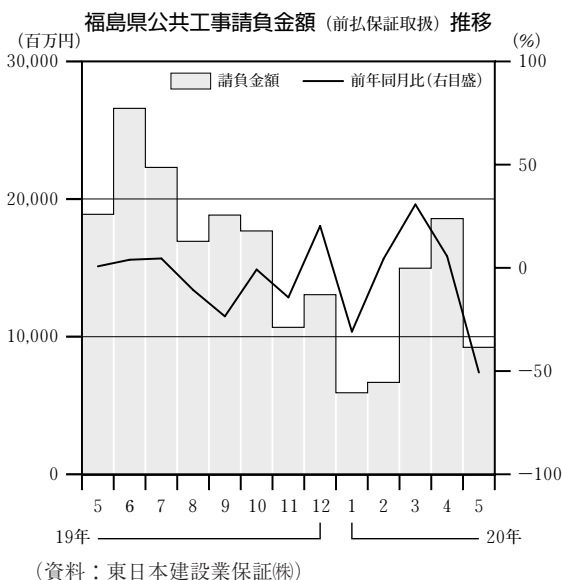
公共工事 5月の公共工事前払保証取扱は、件数で253件(前年同月比2.3%減)、請負金額で93億16百万円(同50.8%減)、保証金額で35億82百万円(同48.1%減)となった。件数は国ならびに市町村は増加したものの、県の発注減(同33.9%減)継続により2ヵ月連続、請負金額は、独立行政法人ならびに一部市町村の大幅な発注反動減により4ヵ月ぶり、保証金額は2ヵ月連続で、いずれも前年を下回った。

平成20年1月から平成20年5月までの累計は、件数で前年同期比322件減少し1,426件(前年同期比18.4%減)、請負金額で同81億92百万円減少し555億84百万円(同12.8%減)、保証金額で同28億75百万円減少し212億58百万円(同11.9%減)となった。件数、請負金額、保証金額がともに前年同月比で減少に転じた。

主な発注者別の年間累計請負金額は、国で前年同期比41億39百万円増加し160億8百万円(同34.9%増)となっている。

一方、厳しい財政事情から公共事業費の抑制が続く県で同113億63百万円減少し154億96百万円(同42.3%減)、市町村で同36億49百万円減少し150億15百万円(同19.6%減)となっている。

設備投資 4月の建築着工(民間・非居住用)の棟数は147棟(前年同月比23.4%減)と2ヵ月連続で前年を下回った。床面積は48,697㎡(同43.2%減)、工事費予定額は56億2百万円(同29.9%減)と大幅な減少になり、ともに3ヵ月ぶりで前年を下回った。



5月の建築物確認件数（計画変更を除く）は、798件（前年同月比16.8%減）と減少幅が拡大し3ヵ月連続で前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物（一定規模以上の建築物が対象）は148件（同33.3%減）、4号建物（小規模な木造・非木造住宅などが対象）は650件（同11.8%減）となり、ともに3ヵ月連続で前年を下回った。「構造計算適合性判定合格件数」は前月比10件増加し13件となった。

建築物着工の先行指標である5月の建築物申請件数は、702件（同31.1%減）と減少幅が拡大し4ヵ月連続で前年を下回った。建築物別にみると、1～3号建物は134件（同49.2%減）と4ヵ月連続、4号建物は568件（同24.8%減）と3ヵ月連続で、ともに前年を下回った。「構造計算適合性判定申請件数」は前月より3件減少し26件となった。建築物申請件数が1～3号建物を中心に減少幅が拡大しており、建築物着工の減少が懸念される。

住宅建設 5月の県内新設住宅着工戸数は、896戸（前年同月比8.0%増）と3ヵ月ぶりに前年を上回った。主な利用関係別にみると、「持家」は498戸（同3.5%増）と2ヵ月ぶり、「分譲」は91戸（同18.2%増）と3ヵ月ぶり、ともに前年を上回った。「貸家」は259戸（同4.1%減）と2ヵ月ぶりに前年を下回った。

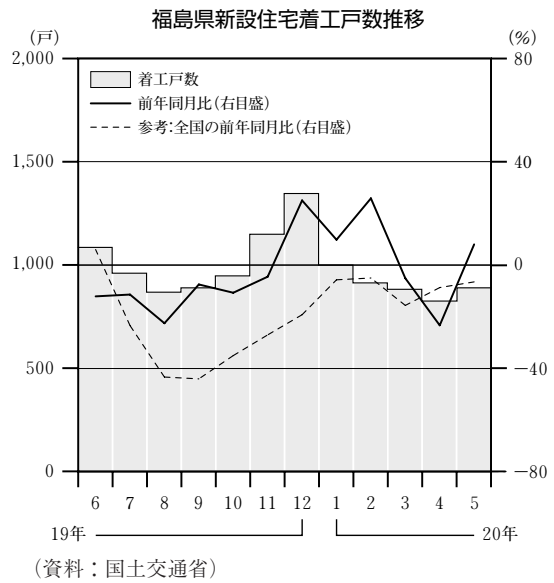
—— 生産活動 ——

鉱工業生産指数 4月の鉱工業生産指数は、季節調整済指数でみると107.0（前月比△0.2%）と2ヵ月ぶりに前月を下回った。原指数は、105.5（前年比+1.9%）と2ヵ月ぶりに前年を上回った。

上昇および低下した主な業種別（季節調整済指数）では、電気機械工業で319.0（前月比+13.2%）、木材・木製品工業で48.5（同+9.7%）、食料品・たばこ工業で78.2（同+8.8%）となり7業種が上昇した。

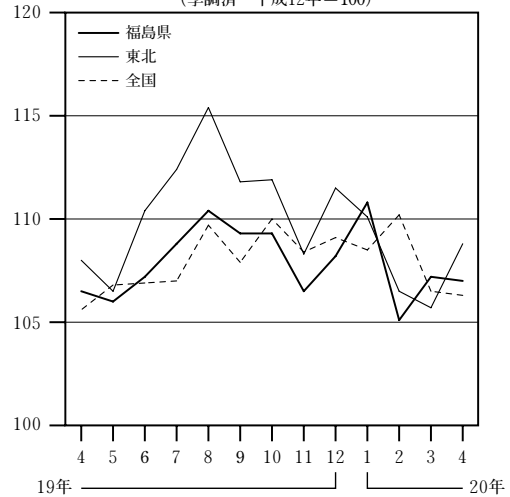
一方、化学工業で83.1（同△15.2%）、精密機械工業で91.0（同△6.5%）、輸送機械工業で110.9（同△6.5%）となり12業種が低下した。

化学 5月の食品包装フィルム用合成樹脂の生産は、国内外からの好調な受注を背景に前年を上回る高水準で推移した。金属代替プラスチックや炭素繊維についても、世界的な需要が堅調で好調な生産となった。



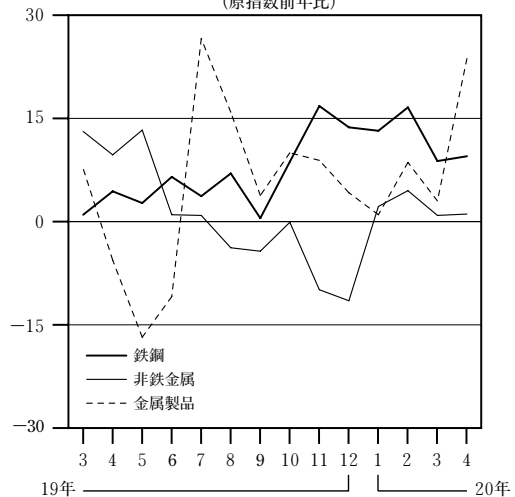
(資料：国土交通省)

福島県鉱工業生産指数 (全国、東北との比較) (季調済 平成12年=100)



※全国値は「平成17年=100」とする確報値を掲載 (資料：福島県企画調整部統計調査課)

福島県業種別鉱工業生産指数の推移 (原指数前年比)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)

5月の酸化チタン（白色顔料、自動車用塗料向け）は前年並み、バリウム化合物（電子部品原料）はやや上回る水準、電子材料の生産などは前年をやや下回る水準で推移した。

鉄鋼・金属 5月の伸銅品の生産は、自動車向け端子材、半導体向け電子材がともに前年をやや上回る水準で推移した。建機用は、海外（中国、オーストラリア、中央アジア等）から鉱物資源用などの受注は堅調であるが前年をやや下回る生産となった。車両用は、新幹線およびJR中央線・京浜東北線の更新需要および台湾、ドバイなど海外からの受注に支えられ引き続き好調に推移した。陸上プラント用バルブ部品は原子力関連などの需要増加、船舶用バルブ部品も好調な受注を背景に前年をやや上回る水準で推移した。

輸送用機械 5月の自動車用鋳造品の生産は、国内は一服状態、海外は北米市場でやや持ち直し基調となり、東南アジアや中南米向けなどの輸出が引き続き好調で前年を上回る高水準で推移した。

電気機械 5月の変圧器、自動車モーターは好調、配電盤、電熱炉、回転機などの生産は、前年を下回る水準で推移した。

情報通信機械 5月の携帯電話中継局用マイクロ波通信機器の生産は、アジア・中近東（インド、トルコ等）などからの受注は堅調であるが、前年をやや下回る水準で推移した。衛星通信機器関連、OA関連機器の生産は、前年並みの水準で推移した。

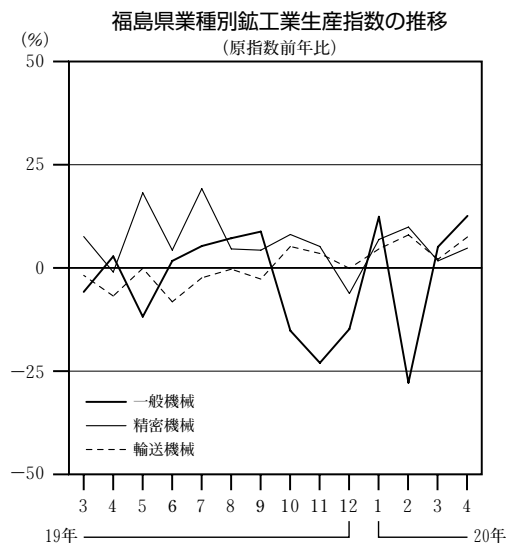
電子部品・デバイス 5月のLSI（大規模集積回路）の生産は、産業機器、パソコン、携帯電話向けがやや低調だったものの、主力のAV・ゲーム機、車載品、通信向けなどが好調に推移し、全体では前年をやや上回る水準で推移した。

精密機械 5月の医療用内視鏡の生産は、安定した需要から前年を上回る水準で推移した。デジタル一眼レフカメラ用レンズは、前年並みの水準で推移した。

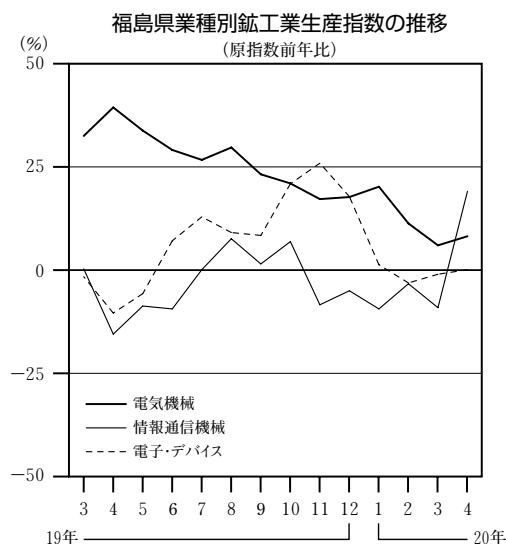
紙・紙加工品 5月の段ボールの生産は、前年並みの水準で推移した。感熱紙は前年を上回る水準で推移した。ノーカーボン紙、インクジェット紙の生産は、前年をやや下回る水準で推移した。

窯業・土石 5月の生コンクリート出荷量は、民需が前年を上回ったものの官公需が引き続き低迷し全体で102,041^m（前年同月比12.5%減）と7ヵ月連続で前年を下回った。

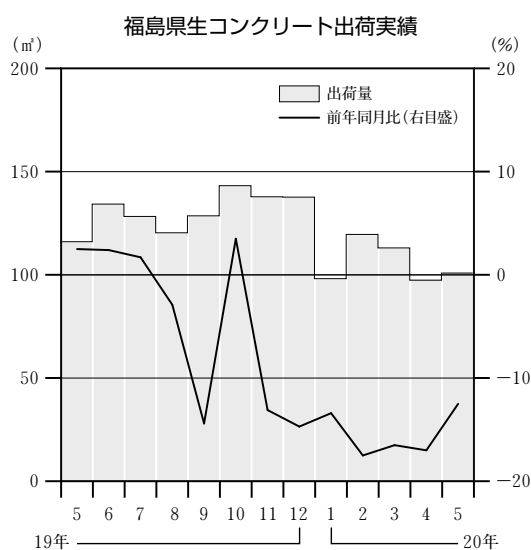
木材・木製品 4月の素材（丸太など）の入荷量



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県企画調整部統計調査課)



(資料：福島県生コンクリート工業組合)

は、26,625^m (前年同月比11.3%減)、販売量は25,835^m (同12.8%減)となり、ともに3ヵ月連続で前年を下回った。一方、製材品(合板など)の入荷量は、3,357^m (同63.3%減)、販売量は2,730^m (同59.7%減)となり、ともに11ヵ月連続で前年を下回った。

4月の木造戸数は、新設住宅着工戸数825戸のうち、566戸(木造率68.6%)となった。

清酒 5月の清酒移出数量は、1,297kl(前年同月比3.0%減)と3ヵ月連続で前年を下回った。

タイプ別では、特定名称酒(吟醸酒・純米酒・本醸造酒)で391kl(同6.7%増)と2ヵ月連続で前年を上回ったものの、一般酒(特定名称酒以外の酒)で906kl(同6.6%減)となり3ヵ月連続で前年を下回った。

化合繊維物 5月のナイロンの生産はダウンジャケット(表地)向けを中心に前年を下回る水準で推移した。ポリエステル生産についても、紳士服、婦人服の裏地向けを中心に前年を下回る水準で推移した。

ニット 5月のニットは、展示会用サンプル生産および高級品を中心に前年並みの水準で推移した。

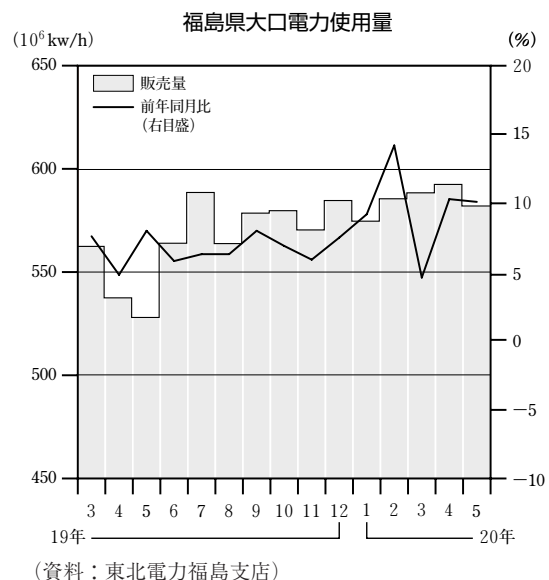
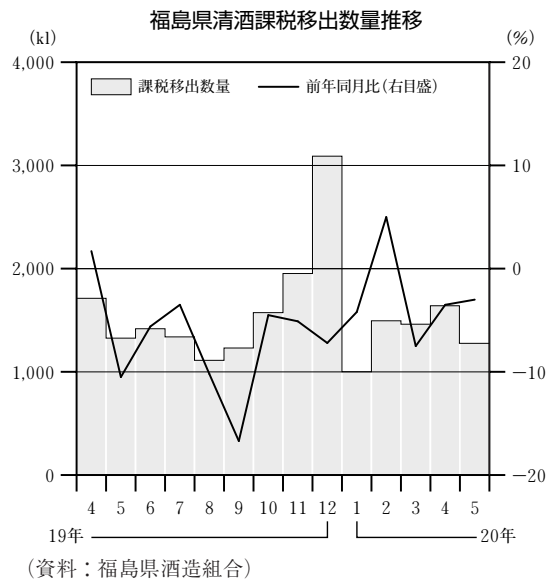
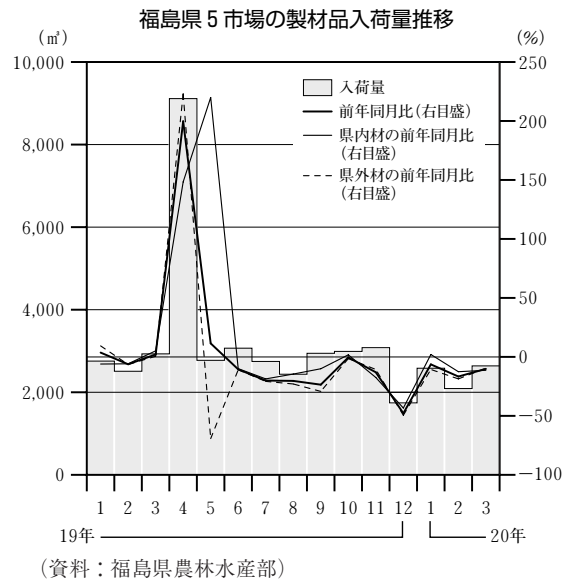
大口電力 5月の大口電力販売量は、582百万kw/h(前年同月比+10.1%)となった。主な販売先を業種別にみると、「電気機械」で123百万kw/h(前年同月比+5.0%)、「非鉄金属」で127百万kw/h(同+37.8%)、「化学」で57百万kw/h(同+4.3%)、「輸送用機械」で55百万kw/h(同+10.1%)、「一般機械」で28百万kw/h(同+0.6%)、「紙・パルプ」で32百万kw/h(同+3.2%)となった。

企業倒産

企業倒産 5月の企業倒産(負債総額10百万円以上)における倒産件数は、20件(前年同月比122.2%増)と大幅に増加し、8ヵ月連続での2桁台となった。

負債金額でも、印刷業で大型倒産が発生したことから61億41百万円(同25.1%増)となった。

平成20年1月から5月までの累計は、倒産件数が前年同期比で17件増加し74件(前年同期比29.8%増)、負債金額が同期比419億47百万円減少し430億39百万円(同比49.4%減)となった。県内企業の倒産状況は、件数が平成15年5月以来となる20件の大台にのるなど高水準にある。また、金



額の前年同期比の減少は昨年4月に発生した負債金額が6百億円を超えるパチンコ店の大型倒産発生 of 反動減であり、依然悪化増勢傾向になっている。

倒産主因の内訳は、受注・販売不振17件、業界不振1件、放漫経営1件、設備投資失敗1件となった。業種の内訳は、建設業、製造業がともに6件、小売業、運輸・通信業、サービス業がともに2件、卸売業、不動産業がともに1件となった。地区別は、県北、会津がともに6件、県南5件、浜通り3件となった。

金融動向

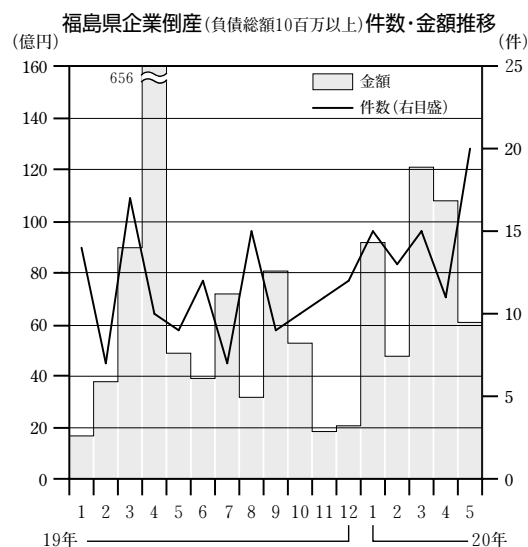
資金需要 県内金融機関（全国銀行、第二地銀、信用金庫、信用組合の県内店舗分）の5月末の預金残高は、6兆2,489億円（前年同月比2.1%増）と15ヵ月連続で前年を上回った。貸出金残高は、3兆7,856億円（同0.1%減）と17ヵ月連続で前年を下回った。

保証協会 5月の保証承諾は、件数で977件（前年同月比16.3%減）、保証金額で98億68百万円（同4.3%減）となり、ともに4ヵ月連続で前年を下回った。一方、代位弁済は、件数で86件（同50.9%増）と前月に引き続き大幅な増加となり4ヵ月連続で前年を上回った。金額でも、7億81百万円（同79.4%増）と引き続き大幅な増加となり3ヵ月連続で前年を大きく上回った。

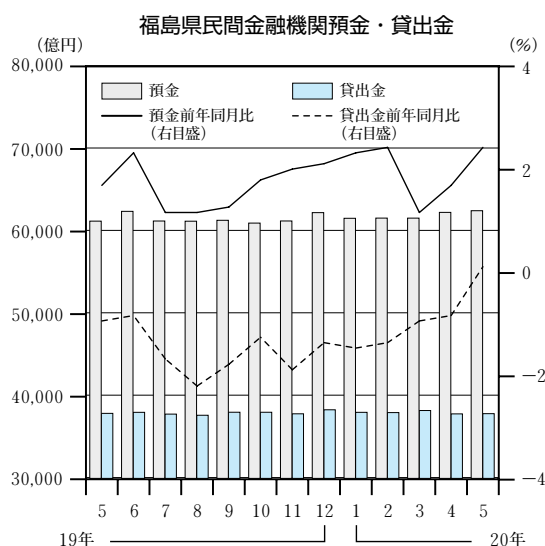
雇用動向

雇用動向 5月の新規求人数（原数値）は、9,386人（前年同月比22.2%減）と7ヵ月連続して前年を下回った。一方、新規求職申込件数（原数値）は、9,801件（同6.5%減）と5ヵ月ぶりに前年を下回った。

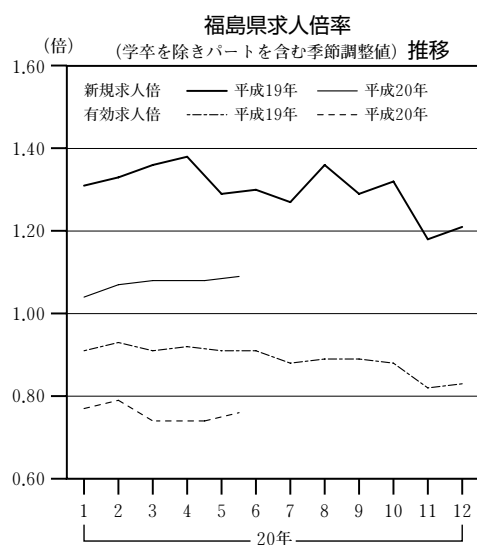
新規求人倍率（季節調整済、パート含）は、1.09倍（前月比0.01%上昇）となった。原数値は0.96倍（前年同月比0.19%低下）と7ヵ月連続して前年を下回った。有効求人倍率（季節調整済、パート含）は、0.76倍（前月比0.02%上昇）となった。原数値は0.67倍（前年同月比0.13%低下）と7ヵ月連続して前年を下回った。



（資料：帝国データバンク福島支店）



（資料：日本銀行福島支店）



（資料：福島県労働局職業安定部）